愛犬とのふれあいの俳句 秋

佐怒賀正美 選

特選

ふるさとの出迎え祖母と犬と月　煌星アニカ

【評】久しぶりの帰省なのだろうか。出迎えてくれたのは祖母と犬。しかもこの日は月も出て、祖母と犬と同列であるかのように作者を迎えてくれている。おだやかな句だが、ふところ深い故郷への帰省の喜びがやわらかく伝わってくる。

愛犬のひるねの時間蝶渡る　川畑　恵子

【評】たとえば縁側などで愛犬が昼寝をしている時間。作者もそばで空を眺めていると、蝶の渡りが過っていった。渡りの蝶と言えば、アサギマダラが知られるが、渡りの季節は主に秋。蝶たちは愛犬の夢にも登場しているだろうか。

身を振るう犬や野原の露飛ばし　木幡　忠文

【評】散歩してきて躰に付いた野原の露を払う犬の仕草を詠んだ句。体いっぱいに付いた露をぶるぶるっと身を振るわせて払う。弾き飛ばした露の勢いを見せて、犬の元気よさが印象に残る。露のはかなさも飛ばされてしまったような。

鳴子対犬や吠えたり怯えたり　小手川とし

【評】何よりも「鳴子対犬」という意表を突いたやや大仰な書き出しがよい。鳴子は初めての犬にとってはやはり不気味な存在なのだろう。挑むように吠えかかったり、怯えたかのように退いてみたり。案外、遊んでいるのかも。

カマキリに怯むフレンチブルドッグ　米今　悠

【評】後半に及んでフレンチブルドッグの表情が見えると、思わずくすっと笑ってしまう愉快な句。犬にとっては一大事なのだろうが、カマキリより体もずっと大きいのに怖がっているのが可笑しい。人も犬も見かけでは分からない。

入選

残暑など知らぬ存ぜず駆ける犬　井浦　裕
かまきりの鎌に前脚あげる犬　猪狩ほうほ
ふかし芋冷ましてるから吠えないで　岩瀬　あん
西海を見つめる子犬秋落暉　近江　董花
子が育ち犬と空見る萩の月　小川　哲雄

佳作

アスファルト確かめ犬と行く残暑　赤峰　里美
新しいパグと見つめる薄紅葉　朝倉　悠月
宵闇に白き輪郭光る犬　飯嶋　紗英
ベランダで愛犬と知る律の風　井汲　祐介
夜も更けて抱く犬愛し秋の雷　池田香奈子
秋日和いつも笑顔とプードルと　石垣ようせい
金風と駆けてコリーの尾燦々　遠藤　玲奈
ひざの上犬はころころ秋の虹　大西　詩音
カフェの外我待つ犬や鰯雲　小川　文章
寝る孫を守る犬への秋日差し　久信田史夫
愛犬のひと声吠えて流れ星　小田中準一
愛犬は末期癌なり虫集く　尾崎　尚志
ポメラニアン蒲の穂絮と親子かな　斉藤　惠
コスモスの横で愛犬しかめ面　神納　嘉代
短足のコーギーたちの狗尾草　守屋　明倖
秋の蚊のしふねき羽音疎む犬　安田　清一
夜勤明け犬と一緒に露の道　須磨ひろみ
大暴れヨークシャーテリア蝶渡る　高澤　千紘
愛犬の昼寝の隙に盆支度　田中　恭司
秋祭り犬も法被を着て並ぶ　辻本　智江
夕涼の犬へそ天の白きかな　ながみねふみこ
夕暮れの稲穂をくぐる犬の影　畑中　麻緒
柴犬を抱いて抱えて夜長かな　羽生　叶人
猛獣のごとく野良犬枯野ゆく　三原　靖彦

児童・生徒

わしゃわしゃと洗うシェパード秋の川　松尾　愛花（12歳）

募集要項

■日本で唯一の「犬」をテーマにした俳壇です。愛犬とのふれあいの中で得た感慨を俳句にしてご応募ください。
■一般部門と児童・生徒部門（中学生以下）の2部門があります。
■原則として、五・七・五の17音でまとめてください。応募作品には、四季折々の「季語（季節を表す言葉）」を入れてください。
■募集期間は「春」（1～3月）・「夏」（4～6月）・「秋」（7～9月）・「冬」（10～12月）年4回の開催で、開催ごとに最終月末に締め切ります。
■郵送での送り先：〒101-8552東京都千代田区神田須田町1-5（一社）ジャパンケネルクラブ広報課「愛犬とのふれあいの俳句」係
■ウェブでの送り先：左記QRコード・JKC HPの専用フォームより入力してください。

詳しくはこちらからご覧ください▼

入賞・発表

■開催ごとに以下の入賞句を選出します。
特選：5句
入選：10句以内
佳作：20句以内
児童・生徒の部入選：若干句
※入賞された方には、記念品（図書カード）をお送りします。入選句は会報誌『JKCガゼット』に掲載されます。